



片柳中学校だより

片柳

さいたま市立片柳中学校  
第5号 平成29年7月19日発行  
さいたま市見沼区大字御蔵551  
TEL 048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

## 10年後の私は、社会は、

校長 島村 暁

先日、ある雑誌に「10年後になくなる職業」についての記事が書いてありました。最近、キャリア教育（生徒が自分の将来をしっかりと考えられるように指導する教育のこと）の会議でも、紹介させていただいた言葉がよく使われます。みなさんもお存知のように「ペッパー君」で有名な人工知能は、加速度的に進化し、人に代わってロボットが多くの仕事をするようになるとも言われています。でも、今までの「10年間で大きく変わっただろうか」「10年後は、仕事が減るだけなのだろうか」といった疑問を感じました。調べてみると、この10年（iPhoneが初めて発売された2007年と2017年を比較）で人気の就職先として上位に入ってきたのは、「広告代理店」の2社でした。つまり、8割は、変わっていないということになります。そして、上位から姿を消したのは自動車関係と電気関係の会社でした。マンガの世界では、全てロボットが…、すべて自動化…というものもあります。でも、ロボットは、プログラムされた仕事をできても、最初のプログラムは人しかできないと私は思います。次に、なくなる仕事もあると思いますが、逆に生まれてくる仕事もあると思います。その記事では、ロボットアドバイザー（ロボットのメンテナンスをする仕事）、輸送アナリスト（自動運転を管理する仕事）…が、新しく生まれるだろう職業として紹介されました。時代の変化に伴って誕生する職業は必ずあると思います。また、10年後もなくなる職業として、医者、教師、看護師、弁護士、ミュージシャン、漫画家、落語家…が紹介されていました。注目したいことは、紹介された職業も「人を相手にする」という点が共通しています。多種多様な相手の反応に対して、「的確・瞬時に対応する」ことが求められる職業であると思います。広くとらえれば、“情”を必要（感情、心情、表情…）とする職業は、人にしかできない職業であるといえます。そして、この“情”は、職業だけでなく家族、友達、仲間といった人と人とが集まる集団にとって大切なものであると思います。今回、夏休みに入るこの時期に、前述の内容から2つのことをお伝えしようと思います。

まず、進路開拓についてです。夏休み、将来の自分（お子さんの未来）を考える時間もつくってほしいと思います。熊谷市のある中学校では、新入生は「10年後の自分」という題で作文を書くそうです。中学入学して直ぐ、将来において自分がどのような職業に就きたいのかを書くのです。入学して数日でこの作文を書くのですから、生徒にとっては難しいと思います。その難しい作文を課す中学校の校長先生のお話では、「とにかく今の段階で書ける自分の将来を書く。文字にすることではっきりと将来の自分が見える。」とのことでした。また、「大事なことは、文字となった自分の将来について否定したり肯定したりすること。それを何度も繰り返す中で本当の答えが見えてくる。この自分と向き合う時間に意味がある。」とも話されました。3年生は、高校の学校説明会や体験入学などへの参加をはじめ、具体的な進学選択になってきます。自分と向き合いながら自分にあった進路を選べるようにしてください。また、少し、時間的に余裕のある1・2年生は、自分の将来について考え、文字にしてみましょう。保護者の方には、お子様の未来についてアドバイスをお願いします。

もうひとつは、先に書きました“情”の部分です。学校では、よく「豊かな心」といいますが、豊かな心を育てるには多くの経験が必要だと思います。“情”（豊かな心）は、多くの経験を通して自分で培っていくものだと思います。夏休みは、友達、先輩、先生といった普段の生活の中での関わりと違い、様々な・多くの人との出会いがあると思います。いろいろな人と会い、いろいろな人と話し、いろいろな考えや価値観にふれることはとても意味のあることだと思います。そのような機会をたくさんつくってくださるよう保護者の方をお願いします。

\*今回紹介したデータ等は、一部の資料を基にしたものであり、確定的な数値や結果と異なる場合もあります。